

湖国生まれの名作“キクとイサム”復活上映 22日、大津で

平成25年8月14日 京都新聞



映画「キクとイサム」
の一場面のパネル写
真を持つ奥之山ジ
ョージさん(右)と角沙
門さん=草津市上笠
3丁目

滋賀県の映画館主が製作し、1959年に公開されたモノクロ映画「キクとイサム」(今井正監督)が22日に大津市浜町の大津アレックスシネマで復活上映される。映画雑誌キネマ旬報の日本映画ベストテン1位などを獲得した名作で、県内の関係者も上映を心待ちにしている。

映画は、戦後の東北を舞台に黒人米兵と日本人女性の間にも生まれた姉キクと弟イサムが成長していく様子を描く。草津市の映画館「シネマハウス」を創業した故角正太郎さんが資金を提供して、2年かけて製作。シネマハウスが2007年に閉館した時も上映し、10年にも滋賀会館(大津市)などで上映された。

角さんの次男沙門さん(79)=草津市=は撮影助手として参加。「撮影の7割が福島県喜多方市などでのロケで、旅館に80人ぐらいのスタッフで泊まり込んだ。今井監督は納得するまでOKを出さず、一場面で20回以上撮り直したこともあった」と振り返る。4月に90歳で死去した俳優三国連太郎さんが同監督の作品に出演したいと自ら売り込み、一場面だけ登場しているという。

イサム役を演じた奥之山ジョージさん(65)=草津市=は、当時通っていた神奈川県の小学校で遊んでいた時に声を掛けられ、オーディションを受け出演が決まった。「遠足気分に参加した。撮影は楽しかった」と笑顔で話す。撮影後は正太郎さんが自宅に引き取って草津市内の小学校に通い、現在は沙門さんの新聞販売店で働く。

2人は「戦後すぐの社会情勢を今の人たちに感じてもらえれば」と話している。

当日は午前9時半から奥之山さんや沙門さんらによるトークショーがあり、10時半から上映。無料。先着50人で、事前申し込みが必要。問い合わせは大津アレックスシネマTEL077(527)9616。